記者会見要旨

日　時：平成 22 年 3 月 17 日（水）午後 4 時 30 分～午後 5 時 5 分
場　所：ＪＡＳＤＡＱプラザ記者会見場
出席者：安東会長、増井副会長、大久保専務理事

冒頭、増井副会長から自主規制会議及び理事会の審議事項等の概要について、大久保専務理事から証券戦略会議の審議事項等の概要について、それぞれ説明が行われた後、大要次のとおり質疑応答が行われた。

（記者）
先般開催された日本証券サミットの手応えについてお伺いしたい。また、日本への関心がどういうものだったのかについて会長の見解をお伺いしたい。

（安東会長）
内容については先ほど大久保専務から説明申し上げたとおりであるが、かなり盛況であった。日本に対する再評価や、日本人は物事を悲観的に見すぎるのではないかという指摘があった。代表的な例として、あるプレゼンターからは、「アジアの西端のイスラエルと東端の日本がアジアのリーダーとして引っ張っていく。日本は環境作りなどの技術において、今でも高い水準を誇っており、このような高い技術力でアジアが発展してきたことにより、現在のアジアの姿があると思うので、もう少し自信を持ってほしい」という指摘があった。
その他にも、今回のセミナーでは、我々が予想していた以上に真剣な質疑があったり、休憩時間等でもかなり質問をする参加者がいたりするなど、関心が高いと感じた。
シンガポールにおいて金融の中心にいる華僑は、これまで日本市場に対してあまり関心を示さなかったが、最近は感触が良くなってきており、実際に日本株のオーダーも寄せられているようである。私は前回も申し上げたとおり、株式市場の見通しについて、今年はかなり強気な見方をしているわけだが、こうした特殊な嗅覚をもった方々がそういった行動を取り始めているのではないかと考えている。
今回、セミナーの最後にＲＥＩＴの話をしたのだが、これも実は彼らからの要請であり、彼らが今の日本の不動産に非常に興味を持っている。実際によい物件等があれば、かなりの資金で買っているという事実もある。

冒頭で申し上げたとおり、日本では景気が悪い、デフレであるといった、何となくシュリンクするような話題が多いわけだが、先ほど述べたようなポジティブな見方が海外で出始めていることに関して、私はそうした見方の方が正しいのだろうという思いを持った次第である。

（記者）
昨日、次期会長候補者の推薦についての発表が行われたが、前氏の選定の経緯や今の証券界の現状を踏まえて、今後の活動への期待について会長の見解を伺いたい。

（安東会長）
ご指摘のとおり、昨日、次期会長候補者について公表したが、私の在任期間は６月末まである。今年はスケジュールが早まり、税制改正要望のとりまとめを６月までに行わなければいけないことから、まだ、私の仕事が残されているわけである。
昨日、人事推薦合同委員会という会議があり、前氏を候補者として推薦していただいた。実は、昨日初めてお会いしたので、前氏について語るのは非常に失礼な話であるが、良い方を推薦していただいたというのが素直な感想である。
もちろん７月以降の話であるが、こうした色々な変化が起きる業界の中で今後のことを見据えて、しっかりとリーダーシップを執ってやっていただきたいと思う。

（記者）
２点お伺いしたい。１点目は４月１日に第一生命が上場するということで、ＮＴＴドコモ以来の大型上場かと思うが、今回の上場が証券市場に与えるインパクトについてどのような見解をお持ちか。

（安東会長）
大型上場は、その直後にマーケットに好影響を与えるケースが多い。値決めはこれからかと思うが、投資家が高いと思うのか安いと思うのか、チャンスだと思うのかどうかだが、冒頭に申し上げたとおり、日本人は悲観的に物事を見過ぎている。株式市場への個人投資家の参入が伸びていない中で、今回株主になられる方の中には株式を保有したことのない方もかなりいるのではないかと思うので、これをきっかけとして、株式市場に個人投資家が参加し、活性化し

てほしいと思っている。

（記者）
　もう１点は、富士通の社長交代を巡って、適切な情報開示が行われていなかったと指摘されている点について、日本を代表する上場会社のこうした出来事をどのように見ているか。

（安東会長）
　不規則な人事では、事実ではないのに健康上の問題を理由にすることが多いが、非常にみっともない話である。著名な会社がこうしたことを行っているのは恥ずかしいことである。

（記者）
　次期会長候補者の件について、今回は大和証券出身の方だと思うが、どうして同社の方が選任されたのか。他の候補者という選択肢があったのかどうかも含めて人選の理由について改めてお伺いしたい。

（安東会長）
　会見であまり細かく述べるのはいかがなものかと思うが、協会長というのは、いわゆる公職に近く、このような会見を行ったり、世間に露出する機会も多い。自分をさしおいて人物本位という言い方は非常に恥ずかしい思いもあるが、こうした職に相応しい方というのが協会長になっていただく最初のプライオリティであると思っている。
　もちろん選択肢ということで色々な方がいる中で、今まで、野村と大和でキャッチボールをしていることについて何をしているのかというようなことを思っている方もいるかもしれない。実際にこれまでの経緯を見ても、当時発生した不祥事を理由として大手が全く就任していなかった頃以降はそのような形になっている。これが、弊害なのかどうかは別として、今後、会長の選び方については、どこの証券会社の出身なのかといったようなことが決め手にならないようにすることが将来に向っては望ましいことであると思う。

（記者）
　本日、日銀が金融政策決定会合で一段の金融緩和、金融市場への資金供給額を１０兆円から２０兆円に増やすという政策を決定したがこれについてどのよ

うに評価するか。

（安東会長）
　絶対量が２０兆円でよいのか、もっとやればよいのではないかという気持ちもある。ただ、３月という時期を考えると、それほど需要がないのに、数字的なサプライズで１０兆円を４０兆円にするというのも現実的ではないと思うし、２０兆円でも十分に足りると思う。
　本日、株式市場は午後から強含みであったが、もう少し大胆な金融緩和の必要性や為替等の問題など、様々な課題があると思う。
　日銀のバランスシートを見ると、欧米諸国と比べても非常にフラットで、ある意味健全な状況であると思うので、今回１０兆円を２０兆円にしたところで、バランスシートが膨らんだということはないだろう。何かあった時に色々な手立てを打てるという可能性を残したことは高く評価をしている。

（記者）
　会長人事の件だが、先ほど会長から「出身母体に関わらず、相応しい方を」というお話があった。２０００年以降、野村証券と大和証券で襷掛けのように就任されていると思うが、将来は銀行系証券、外資系証券の方であっても協会長に相応しい方がいれば排除すべきではないともとれるが、そのような認識でよいか。

（安東会長）
　結構である。そのように思っている。

以　上